

所在地：滋賀県長浜市

選定年月日：平成26年10月6日

面積：1,568.4ha

選定基準：二(一)(一)(三)(七)(八))

(1) 概要

菅浦は、琵琶湖最北部の急峻な沈降地形に営まれた集落です。鎌倉時代から江戸時代にかけての集落の動向を記した『菅浦文書』によると、永仁3年（1295）、菅浦は集落北西に所在する日指^(ひさし)・諸河^(もろこ)の棚田を、隣接する集落である大浦と争い、以降150年余りにわたって係争が続いたことが知られています。

また、14世紀半ばには住民の自治的・地縁的結合に基づく共同組織である惣^(そう)が、菅浦において既に作り上げられていたことが分かります。中世以来の自治意識及び自治組織は、時代に応じて緩やかに変化しながら、継承されています。

菅浦の居住地は、西村及び東村に大きく二分され、それぞれ西の四足門^(しそくもん)及び東の四足門で集落の境界を表しています。また、湖から集落背後の山林にかけて連続する地形の中で明確な集落構造が認められます。特にハマと呼ぶ湖岸の空間は、平地が狭小な菅浦において極めて有用であり、生産の場・作業場・湖上と陸上との結節点といった多様な用途が重層しています。

このように、菅浦の湖岸集落景観は、奥琵琶湖の急峻な地形における生活・生業によって形成された独特の集落構造を示す景観地です。中世の惣に遡る強固な共同体によって維持されてきた文化的景観で、『菅浦文書』等により集落構造及び共同体の在り方を歴史的に示すことができる希有な事例です。



菅浦全景



日指・諸河の棚田

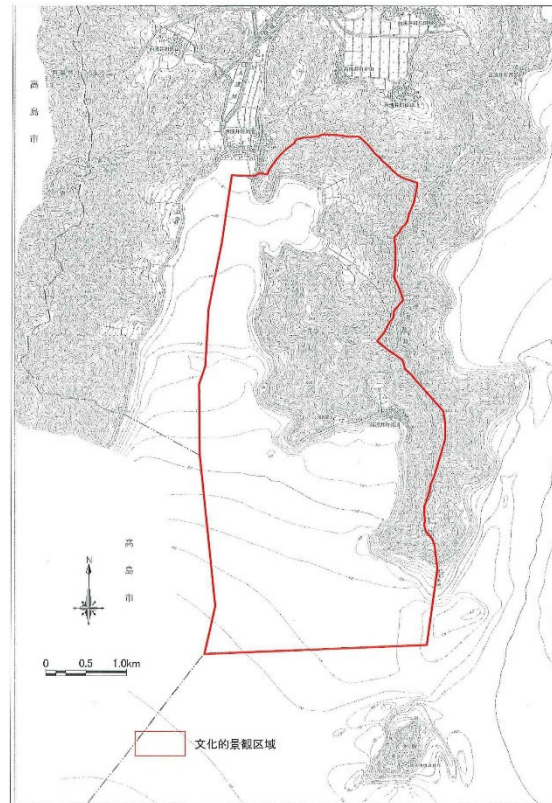


西の四足門



ハマミチの石積み前を通る御輿（春祭り）

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：76件
- 国指定等文化財：菅浦文書（国宝・書跡等）、木造阿弥陀如来立像 行快作（重要文化財・彫刻）、
- 県指定文化財：諸川瓦窯跡（史跡）、
- 市指定文化財：六字名号曼荼羅（絵画）、仏涅槃図（絵画）、阿弥陀如来坐像（彫刻）、聖観音坐像（彫刻）、阿弥陀如来立像（彫刻）、鰐口（工芸品）、須賀神社例祭（無形民俗文化財）

（３）選定による効果

菅浦の湖岸集落景観では、少子高齢化、過疎化が進み、集落を維持することが大きな課題となっています。

選定前の文化的景観の保存調査、それを踏まえた保存計画を検討する中で、美しい景観が地域の宝であるという意識が高まりました。住民が主体となった集落を守り育てるため、地元住民が惣村の会を設置するなど、市と集落の協働により景観を育んできました。

また、文化的景観の制度を活用し、地域の構成要素のひとつである石垣の復旧修理など、他の制度で対応しづらい事業を実施しています。



構成要素である石垣の復旧作業



説明看板の設置

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 菅浦の湖岸集落景観保存活用計画報告書（平成26年3月、滋賀県長浜市）
- ホームページ <https://www.city.nagahama.lg.jp/0000000278.html>

（５）活用事例

事例25-05 ①

中世からの地域のまとまりを示す四足門の修理支援

文化庁補助金

●行政による取り組み

菅浦集落の東西の端にあり、中世から集落の領域を示す結界装置としての機能を持っていたと言われる「四足門」の修理が実施されました。

修理内容としては、屋根の葎材の葺き替えが大部分であり、葺き替えにより、往時の四足門の姿がよみがえることとなりました。

集落の玄関口にあり、集落のシンボルの役割を担う四足門の修理により、水辺との距離が近く、昔と変わらない静かな生活が維持されている菅浦の魅力を高めることができました。

修理完了後は、実際に見て、地域の歴史に触れることで、貴重な文化遺産を次世代に守り伝える機会を生み出しています。



西の四足門（修理前）



西の四足門（修理完了後）



東の四足門（修理前）



東の四足門（修理完了後）

① 地域内での
魅力の共有② 活性
目標の共有③ 広域
域外への④ 魅力を引き
出す開発⑤ 財源と運用
確保

⑥ 人づくり・

（５）活用事例

事例25-05 ②

中世の自治を伝える国宝「菅浦文書」の里帰り展示の実現

●行政と住民等の協働による取り組み

鎌倉、室町時代に自治権がある村落「惣」だった菅浦集落の当時を伝える国宝「菅浦文書」のうち、「菅浦惣庄置文」と「菅浦与大浦下庄堺絵図」を展示する特別企画展が、地元の菅浦郷土資料館で実現しました。

「菅浦文書」は、総数1,281点を数え、その内容は鎌倉時代から江戸時代に至る菅浦の歴史について記しています。

この文書群は、地域の誇りとして菅浦の歴史を語り継ぐため、住民によって大切に守り伝えられてきました。現在は、滋賀大学経済学部附属史料館で保管されており、菅浦に里帰りするのは、約70年ぶりの出来事でした。

地元住民からの、菅浦の地で国宝「菅浦文書」を展示したいという要望を受け、長浜城歴史博物館が展示協力を行い、集落内外の菅浦集落の歴史に対する理解などの創出ができる機会となりました。



「菅浦文書」里帰り展示の様子
（長浜城歴史博物館 提供）

団体等情報：菅浦郷土史料館
https://kitabiwako.jp/spot/spot_733

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育ち